

# 岩なるイエス・キリストを 土台とした人生

マタイ7章7～27節  
2022年1月30日  
松田 基子 師

山上の説教は、イエス様が、  
『父なる神様を信じ、ご自身を信じて  
従う者の生き方』

を教えられたものです。マタイ5章1節から、  
7章6節まで、

『具体的に、どの様な生き方をすべきか』  
が、記されています。そこに記されている教え  
を新共同訳聖書の標題で見て行きますと、

〈幸いの教え〉〈あなた方は地の塩、世の光  
である〉〈あなた方の義が、律法学者やファ  
リサイ派の人々の義に勝るように〉〈腹を立  
ててはならない〉〈姦淫してはならない〉  
〈不当な離縁をしてはならない〉〈誓っては  
ならない〉〈復讐してはならない〉〈敵を愛  
しなさい〉〈施しは右の手のする事を、左の  
手に知らせてはならない〉〈祈りについて、  
主の祈り〉〈断食は人に気付かれないよう  
に〉〈天に富を積みなさい〉〈身体の灯であ  
る目を澄ませなさい〉〈神と富とに仕えること  
は出来ない〉〈思い悩むな〉〈人を裁くな〉  
と記されています。どれもこれも素晴らしい教  
えばかりです。私たちもその一つひとつを聞いて、

『わたしもそうになりたい。そうありたいと、  
願うのですが、』

では、果たして、

『そのように従えるか』

と、問われますと、

『イエス様ごめんなさい。私はやろうと思って  
頑張ってみても、すぐに崩れてしまいます。

どうか、こんな弱い私を憐れんで下さい』

と言うより他有りません。そんな弱虫の甘えた  
心に、イエス様は、

『まあ・・・仕方が無い。それでは  
そのまま、付いて来なさい』

と、言って下さるのでしょいか。

そうではありません。全能の神様を信じ、  
イエス・キリストを信じて、付いて行くという事は、  
コリントⅡの5章17節に、記されていますように、

「キリストと結ばれる人は誰でも、  
新しく創造された者なのです」

とある通り、新しい存在にされる事です。 ですから、イエス様は、ご自身に従う者に向かって、  
罪の弱さの中から出て来ることを、求められました。

それが、マタイ7章7節からの、

《求めなさい》

です。誰に求めるのでしょうか。勿論神様に  
です。イエス様は、

「求めなさい、そうすれば与えられる。探し  
なさい、そうすれば、見つかる。門を叩きな  
さい、そうすれば開かれる」

と言われ、次の、8節には、

「誰でも、求める者は受け、探す者は  
見つけ、門を叩く者には開かれる」

とはっきり、神様の約束を告げられました。

しかし、問題は、私たちが真剣に、それを求  
めるかどうかです。最初からあきらめて

『そんなの、しんどい。わたしはどうせ、そん  
な立派な信仰者には、なれないのだから』

と言うのは、イエス様から与えられた、十字架の  
贖いによる御救いの尊さと、愛が分かっている  
いからだ、と言えるのではないのでしょうか。自分  
の罪深さは、イエス様の生身の身体を、十字架  
に釘付けにし、自分には到底耐えられない、痛  
み苦しみ、辱めを負わせた重いものです。そこ  
に、本来、自分が十字架に架けられるべき者で  
あると言うことが、分かるなら、罪のぬるま湯に尚、  
漬かり続ける事は出来ない筈です。それなの  
に、自分は安住して、少しも変わろうとしない事  
は、贖い主であるイエス様の愛に、答えていると  
は、言えません。

しかし、イエス様はここで、何も自分の力で、

「イエス様が語られた教えを守りなさい」

と言っておられるではありません。神様は、  
その力を与えようと、待っておられるのです。

その神様の姿を、人間の親子に喩えて、  
9節に、

「あなたがたのだれが、パンを欲しが  
る自分に、石を与えるだろうか。魚を欲しが  
るのに、蛇を与えるだろうか。このように、あ  
なたがたは悪い者でありながらも、自分の子  
供には良い物を与えることを知っている。ま  
して、あなたがたの天の父は、求める者に良  
い物をくださるにちがいない」

と言っておられます。

このところをルカ福音書では、  
「天の父は、求める者に聖霊を  
与えて下さる」

となっています。どんなにお説教をされ、お尻  
を叩かれても、自分の力でイエス様が生きられた  
ように、また、イエス様が命じられる様に、行う事  
は出来ません。そこには聖霊が私たちの内に、  
内住して下さり、聖霊の力に押し出されて初め  
て、思いも、行動も変えられてくるのです。

そうしますと、

『あれもしなければならぬ。  
これもしなければならぬ。』

ではなくて、イエス様がマタイ7章12節で命じて  
おられる、

「人にしてもらいたいと思うことを何でも、  
あなたがたも人にしなさい」

が行動基準になって来るのです。

「これこそ律法と預言者である」

とは、つまり、聖書全体を、全うする事ができ  
ると言う事です。

あれをしなければ、これをしなければ、ではな  
くて、心そのものが変えられなければ、行動の  
変容は起こりません。イエス様の十字架の贖  
いに依る御救いに、心からなる感謝が溢れ、聖  
霊の導きを求めて行く時、隣人への愛が生まれ、  
隣人の必要に喜んで、手を差し伸べずにはいら  
れなくなるのです。しかし、そのような生き方は、  
この世の価値観からは、損な生き方です。

他者の事は考えないで、自分中心に、自己  
に利する事を求めて生きる人々にとっては、愚  
かな生き方に見えるでしょう。その道を探す気  
にもならないでしょう。この世に於いては、皆、  
自己の利益を求める、多くの人々が歩む、広い道  
が広がっています。それが大多数ですから、

人々はそこに安心を求めて歩み続けています。  
イエス様はそのような、この世の姿を御覧になつ  
て、13節に、

「滅びに通じる門は広く、その道も  
広々として、そこから入る者が多い」  
と言われました。

一方、イエス様に従う道は、イエス様がご自身  
を与えられたように、与える人生です。この世  
の価値観からは、マイナスの人生です。でも、  
イエス様は、マタイ福音書16章25節で、

「自分の命を救いたいと思う者は、それを  
失うが、わたしのために命を失う者は、  
それを得る」

と言われました。具体的には、自分を与える。  
つまり、7章12節の、

「人にしてもらいたいと思うことは、何でも、  
あなたがたも人にしなさい」

の、人生を歩む事です。この世の常識からは、  
考えられない生き方です。そこでイエス様は、  
その道を、

「命に通じる門はなんと狭く、その道も細  
いことか。それを見いだす者は少ない」

と言われました。誰がその道を歩んでいるので  
しょうか。自分はイエス様に従っているつもりで、  
実は広い道を歩いている人も居るのです。

イエス様は、21 節から

「わたしに向かって、  
『主よ、主よ』

と言うものが、皆、天の国に入るわけでは  
ない。わたしの天の父の御心を行う者  
だけが、入るのである」

と言っておられます。自分を顧みますと、  
行ったり来たり信仰で、とても神様の御心  
に従っているとは思えません。心細くなるその  
心に、イエス様の更に厳しい言葉が響いてきま  
す。22節に、

「かの日には、大勢のものがわたしに、  
『主よ、主よ、わたしたちは御名によって  
預言し、御名によって悪霊を追い出し、  
御名によって奇跡をいろいろ行ったでは  
ありませんか』

と言うであろう。

「そのときわたしはきっぱりとこう言おう。

『あなたたちのことは全然知らない。不法を働く者ども、わたしから離れ去れ』

と言っておられます。

かの日と言うのは、この世界が終結して、神の国がもたらされる時ですが、1人ひとり、与えられた人生について、審判を受けなければなりません。その時、人々は皆、自己弁護をするのです。或る人は、イエス・キリストの福音を語り、悪霊を追い出し、奇跡まで行った事を、イエス様に対して申し開きをします。それなのにイエス様は、

「あなたたちのことは全然知らない。不法を働く者ども、わたしから離れ去れ」

と言われるのです。何と言う事でしょう。

『だったら誰が天国に入れるのだろうか』

と大変心配になってきます。しかもそれは、

「大勢だ」

と記されています。

多くの真面目なキリスト者は、ここで失望してしまいます。しかし、この箇所は、そのような意味で、

「あなたたちのことは全然知らない。不法を働く者ども、わたしから離れ去れ」

と言われているのではないのです。イエス様から、かの日、即ち、最後の審判で、そう言われるのは、15節の偽預言者達の事です。

イエス様ははっきりと、

「不法を働く者」

と言っておられます。詳訳聖書では、

「私の戒めを無視する者」

と訳されています。ここで預言者と言うのは、福音を語って歩く、巡回伝道者達の事だとされています。

初代教会時代には、そういう人達が大勢いたようです。

『福音を語るのだからきっと、私心が無く、ただ神様の御名が崇められる事を、求めて語るに違いない』

と思うのですが、中には、自分の栄誉、利益を求めて、神様の名を利用している巡回伝道者達もいたのです。偽預言者かどうか、それは口先だけで、病が癒される、奇跡と思われることが結

果として現れなければ、それを見破る事が出来ますが、彼らもまた、病を癒す事が出来、奇跡を行ったのです。どうやって見分ける事が出来ると言うのでしょうか。

イエス様は16節で、

「あなた方はその実で彼らを見分ける、すべて良い木は、良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ」

と言っておられます。ここで問われることは、

『良い実とは、どんな実か』

と言う事です。或る人にとっては、

『自分の願いごとを叶えてくれる』

例えば、病を癒してくれる預言者、その人が自分の功績を誇る為に、癒しを行っていたとしても、病が治った人にとっては、それは良い実と思えるのではないのでしょうか。

その事を考えますと、良い実とは、人間の願望実現ではなくて、神様に繋がる、神様の御名が崇められ、他者を心から愛する信仰ではないのでしょうか。イエス様は、罪を愛して、自己満足に生きる大きな広い道へ、流れ込んでいく人類に心を傷め、その行き着く先が永遠の滅びである事が分からないまま、考えることなく、皆一緒と言う事に安心して、滅びへの道を進み行く人類を助け救うために、その罪を引き受け、身代わりとなって刑罰を受け、人類の贖い主となられるのです。

イエス様の生き方こそ、良い実そのものです。イエス様は、ただ父なる神様の御名を崇め、ご自身を与え尽くされました。偽預言者か、真の預言者か、偽りの信仰者か、真の信仰者か、それを見分けるのは、

『イエス様に、如何に似ているか』

と言う事でしょう。しかし、生来自己顕示欲が強いと言うのが、人間の生まれながらの性質です。最初は謙遜に聖霊の導きに従い、栄光を神様に帰していても、周りから称賛の声を受けると、自分の力を誇り、口ではイエス様の教えを語りながら、心は自分への周りからの評価に、期待してしまうのです。

信仰は、何時も今です。過去にどの様な大

きな業を行ったとしても、過去にどの様に信仰が篤くても、それによって、天の御国に迎えられないわけではありません。イエス様は、山上の説教の締めくくり、24節から、

「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて  
行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた  
賢い人に似ている」

と言われました。生来の私たちには、イエス様が語られた言葉を、行う力がないと言う事は、イエス様が一番ご存知です。しかし、**たった一つそれが可能になる道がある**のです。それは、イエス様に**結ばれて**、イエス様の**愛に押し出される**時、イエス様が言われた**事を行う事が出来る**のです。

イエス様は**人生の土台**、つまり、自分の全存在を、どこに**結ばれて生きるか**を問うておられます。ここでイエス様は、ご自身こそ、岩である事を宣言しておられます。25節に、

「雨が降り、川があふれ、風が吹いてその  
家を襲っても、倒れなかった。岩を土台と  
していたからである」

と言っておられます。近年洪水が、日本全国に頻発しています。洪水は生命、財産を呑み込み奪い去って行きます。人生にはそのように、いつ生命の危険に晒される様な事が起こって来るか分かりませんが、人は誰も、必ず地上の住まいを奪われる、人生の大嵐である死を迎えなければなりません。その時、イエス様に、自分の全存在を委ね、岩なるイエス・キリストの中に、深く根ざしているなら、永遠の滅びの濁流から救われ、天の御国に迎え入れられるのです。

一方、26節には、

「わたしのこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れて、その倒れ方がひどかった」

と言われました。パレスチナの気候は、雨季と乾季がはっきりと分かれています。雨季には大雨が連日続き、ワジと言って、雨季の時だけ流れる川が出来ます。乾季になれば、そこは平地となり、利便性があります。目の前の事だけで、自分で判断する人は、そう言う所に家を建て

るというのです。つまり、人生の土台を、自分自身に置いて、自分で判断し行動するのです。福音を聞いても、自分の判断で、そんな自分に利をもたらさない事は必要ないと、人生から排除して行くのです。そのような人生にも人生の終末は必ず来ます。自分で責任を負わなければなりません。持ち堪える事は出来ません。どちらを選ぶか、それは、今日の私たちにも問われています。

イエス様は、私たちに、

『人生の終末にも、この世の終末にも耐える事が出来るように、ご自身を人生の土台、つまり、自分の全存在をイエス様に委ねて、聖霊の導きと、助けによって、イエス様が残して下さった、模範に倣って、この世の旅路を雄々しく、歩み抜いて来る様に』

と招いて下さっています。確かに、その門は狭く、その道は細いのですが、**その道こそ**、天の御国へと**続いている道**なのです。

私たちは、共にイエス様に繋がり、励まし合いながらこの道を歩んで参りましょう。

お祈りをいたします。

憐れみ深い天の父なる神様

あなた様は、御子イエス・キリストによって、私たち人類の罪の贖いをなしてくださいました。そればかりか、イエス様を人生の土台として、イエス様に倣って、人生の旅路を生き抜き、天の御国へ帰って来るようにと招いて下さり、有難うございます。

弱い私達は唯、イエス様にすがりついて行くだけですが、聖霊の導きと、助け、罪に打ち勝つ力をお与え下さい。

尊い救い主イエス・キリストの  
お名前によってお祈り致します。

アーメン。